幹部職員インタビュー

# エビデンスに基づく意思決定が行われる社会のために

統計局統計調査部
国勢統計課調査官

**永井 恵子**

Nagai Keiko

## 総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

お恥ずかしい話ですが、最初は、漠然と「安定している」とか「試験に受かりさえすれば入れる」という理由で国家公務員を目指していました。統計局は大学からも近く、場所になじみがあったので、どんなことをしている所なのだろうかと興味を持ちました。実際に、いくつか官庁訪問をする中で、一番、雰囲気がゆったりしていたこと、特定の行政分野に偏らず広い視野を持って仕事にあたれそうだと思ったことがきっかけです。

## これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

ひとつだけ選ぶとしたら、消費者物価指数（CPI）の基準改定でしょうか。CPIはモノやサービスの価格を総合的に表す指標で、金融政策や年金額の改定などに使われています。５年に一度、作成方法を見直す基準改定が行われますが、係長として担当した際は、責任と重圧を感じる一方でその面白さにのめり込みました。当時は常に「どうしたら、真の姿に近づけるのか」と考えていたように思います。公表した際には、巷で予想されていたよりも指数が大きく下がったことから、「CPIショック」と騒がせたのも非常に良く覚えています。

## 現在の携わっている業務について教えてください。

現在は、国勢調査、人口推計、住民基本台帳人口移動報告の公表及び研究分析業務を担当しています。国勢調査は、我が国に常住する全ての人及び世帯を対象とする調査で、その結果は、法定人口をはじめ多岐にわたって利用されています。５年に一度実施される国勢調査の間の年及び月の人口を他の統計を利用して推計するのが人口推計、住民票の転入届の情報から国内の移動状況を明らかにするのが住民基本台帳人口移動報告です。これらの統計の公表にあたり、結果についての分析や、わかりやすく伝えるためのレポートの作成なども行っています。

## 統計分野での総務省の役割を教えてください。

我が国の統計機構は、各府省がそれぞれの施策に必要な統計を作成する分散型となっており、総合調整の役割を総務省政策統括官（統計制度担当）が担っています。一方、私のいる統計局は、統計作成部局として、公的統計の中でも、国勢調査を始めとする国の基本的で重要な統計調査の企画・実施、統計の作成･提供を行っています。最近では、担当する統計のみならず、公的統計全体が社会に役立つ正確な統計であるための手助けをする役割も求められているように感じます。また、社会に統計的なものの見方を広めるような活動も行っています。

## 統計分野でのやりがいについて教えてください。

統計調査を担当していると、調査の対象となった世帯の方から「何の役に立つんですか」と問われることがよくあります。統計は、直接的に何かの役には立ちません。しかし、ものごとを判断するための材料やものさしとして、行政における利用だけではなく、社会のための情報基盤として、全ての方に役立てていただけるものだと考えています。専門的、中立的な立場からそういったものに携われることがやりがいだと思います。また、個人的にはデータから社会の状況が分かることに面白さを感じています。

## 受験者へのメッセージをお願いします。

エビデンスに基づく意思決定が求められており、社会における統計の重要性はますます高まっています。統計というと、理系でないと難しいと思うかもしれませんが、いろんなバックボーンをもった職員がいますし、私自身も文系学部の出身です。専門性は研修等で身につけることもできますし、海外への対応など、様々な業務がありますので、構えずにいろんな方に志望して欲しいと思います。また、職員は女性が多く、テレワークや休暇の取得しやすさ、自由に意見の言いやすい雰囲気など、働きやすい環境が整っていると思います。

## 入省後の略歴と職務内容

**1994～1995年**
**総務庁統計局統計調査部**
**国勢統計課　企画係員**
国勢調査の企画・実施を担当。初めての配属先、ここでの経験、諸先輩方の姿がその後の目標に。

**2004～2006年**
**総務省統計局統計調査部**
**消費統計課物価統計室**
**物価指数第一係長**
消費者物価指数（CPI）の基準改定を担当。IMFのデータ公表基準にかかる査察の対応も。専門性の必要を痛感。

**2007～2008年**
**内閣府経済社会総合研究所**
**国民経済計算部国民支出課**
**研究専門職**
SNAの推計を担当。初めての出向、業務の進め方、雰囲気の違いを感じ、良い経験に。

**2012～2013年**
**総務省統計局総務課**
**企画調整係長**
統計局の窓としての総括業務。総務省全体から見た統計局の立場なども意識するように。

**2013～2015年**
**総務省統計局**
**統計情報システム課**
**統計情報企画室　課長補佐**
統計局の広報、統計教育や統計的なものの見方の普及活動などに従事。オンライン講座などでの講師も。

**2016～2018年**
**総務省統計局統計調査部**
**国勢統計課労働力統計室**
**課長補佐**
労働力調査の公表、標本設計、研究分析業務。対外的な説明をする機会が増え、係長との業務の違いを実感。

**2018年～**
**総務省統計局統計調査部**
**国勢統計課**
**課長補佐、調査官**
国勢調査の公表・研究分析業務。その後、調査官として、人口推計、住民基本台帳人口移動報告の公表も担当。